山の方を見渡すに立ち昇りし黒烟空に覆ひて
高く焼けあがるを見るに西郷林四郎之を見て是
孤城なり所の主を自焼すると覚えたり軍速に
高城せよ　指令人々行て若堂として旁近んで
地を切り立て茅を付け火を放て焼　大浦の城中より
出る兵を高城　と　あるを　四郎　ちまち　ハ
ハ　ハ　味方敗軍し　うは必定　ぶ　義を知へ
て義を立て待奉る。西目なれ　て敵の色合に
蒐入て討死仕ぐやと　あるいはやうといひけるに四郎

之を聞て　味方敗軍　ても敵の陣
所を蒐入て　ぬる　て一戦仕ぐ　一旦　仕
て　ぬ　大浦城　に　雲の　を
過て　橋山　を　を　て　を
て　橋の　陣へ　行　と　ぬ　日氏の嗜
山　て　て　進　で　を　ち　を　辺の者と
急　て　日　四五人　ひ　ひ　ぬ　て
逃　と　て　を　て　陣　前　門　て
陣　ぬ　ぬ　人　何　人　を